

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた

授業のデザイン

新学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが示されています。本紙は、改訂の趣旨を踏まえた授業の例などを示しています。各学校において、自校の年間指導計画や児童の実態等を踏まえ、確かな学力を身に付けさせる授業をデザイン（構想）するための参考資料として御活用ください。



小学校・音楽



音楽科の目標及び学習指導要領改訂のポイント

1 音楽科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

2 学習指導要領改訂のポイント

◇内容構成の改善

表現領域（「歌唱」「器楽」「音楽づくり」）、鑑賞領域及び〔共通事項〕で構成する。

◇〔共通事項〕の新設

◇歌唱共通教材の充実（取り扱う楽曲数の増加）

◇「音楽づくり」について（音遊びや即興的に表現することを通して音の面白さに気付いたり、音楽づくりの様々な発想をもったりすることの重視）

◇鑑賞教材における我が国の音楽の充実

◇言語活動の充実

事例と関連のある本県の重点とする目標

－「指導の指針」より 栃木県教育委員会－

- 感性を働かせて感じ取ったことを基に、思考・判断し表現する一連の過程を大切にした指導方法の工夫改善
- 我が国や郷土の伝統音楽に関する指導
- 音楽活動の基礎的な能力の育成
- 言語活動の在り方
- コミュニケーションを図る指導の充実
- 指導と評価の一体化

【参考文献】

- ・「小学校学習指導要領解説 音楽編」 文部科学省 平成20年8月
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 音楽】」 国立教育政策研究所 平成23年11月
- ・「指導の指針」 栃木県教育委員会 平成25年3月

◇本リーフレットは栃木県総合教育センターホームページ(<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>)から、ダウンロードできます。
◇問い合わせ先 栃木県総合教育センター研究調査部 TEL028-665-7204

キーワード

歌唱 旋律 拍の流れやフレーズ 問いと答え 歌唱共通教材

新学習指導要領では、取り扱う歌唱共通教材の曲数が増え指導の充実が求められています。本事例では、歌唱共通教材に親しませるとともに、体の動きを伴った活動や、歌詞の情景を思い浮かべる活動などを通して、児童が思いをもって表現しようとする力の育成を目指します。

指導のねらい

旋律の動きや拍の流れやフレーズを感じ取り、思いをもって楽曲の気分にあった表現を工夫することができるようにする。

＜学習指導要領との関連＞【第1学年及び第2学年】

A表現(1)歌唱 イエ〔共通事項〕ア(ア)旋律 拍の流れやフレーズ (イ)問いと答え

授業の例

題材名「のびやかに歌おう」(第2学年)のうち、「春が来た」2/2時間

「春が来た」に加えて、春の訪れや進級の喜びを表現した歌唱教材で題材を構成します。本時は、「春が来た」を歌詞で歌える状態から始める例です。



学習活動と予想される反応	指導上の留意点と言葉かけ
1 既習曲「山びこ ごっこ」(おうちやすゆき作詞 若月明人作曲)を、問いと答えを意識して歌唱する。 2 「春が来た」を、分担して歌詞を音読したり歌唱したりする。 I 案 A 春が来た 春が来た B どこに来た A 山に来了 B 里に来了 A B 野にも来た II 案 A 春が来た春が来た どこに来了 B 山に来了 里に来了 野にも来た 3 旋律の動きに合わせて、歌いながら手を動かす。 「『野にも』の音が高くなっているよ。」「山の形が三つずつになったよ。」 4 春が来るとどんな気持ちになるかを話し合う。 「ぼかぼか暖かくなるのでウキウキする。」「身体を動かしたくなるな。」 5 どのように歌いたいかをワークシートに書いて、意見を交流する。 「音が高くなるところを、きれいに歌いたいな。」 「山、里、野と、春が近づいてくるようにだんだん強く歌いたい。」 6 自分の思いや話し合ったことを生かして「春が来た」を通して歌う。 「前より、やわらかい声で、春らしく歌えたよ。」 「だんだん強くしたから、春が近付いてきた感じになったよ。」 7 春の様子を表す擬声語や擬態語を、合いの手として、第4、第8小節に入れて旋律と重ねて歌う。(前時に既習) 「ぽーか ぽか」「ラン ラン」「ほわ ほわ」「ピチュ ピチュ」 8 本時の学習を振り返る。	「相手のグループに呼びかけるように歌いましょう。」 ・分担唱で問いと答えを意識して歌うことにより、楽曲を新鮮に感じたり、自分と相手の声を聴きながら歌ったりすることが期待できる。 ・体を使った表現では、教師と一緒に動いて見せることで、主体的な表現を促す。 「生活科で見つけた『春』についても思い出してみましょう。」 「どのように歌いたいかを吹き出しに書きましょう。」 ・それぞれの思いを尊重しつつ、いくつかの意見を取り上げて、工夫させる。 ・歌唱への思いを実現できるように、息や声の使い方について具体的に助言する。 「お花のよい香りをかぐように、鼻で息を吸ってみましょう。」「高い声は、額の真ん中を通るように出しましょう。」 「歌の雰囲気合った合いの手を入れて楽しく歌いましょう。」 ・思いを込めて歌えたことを称賛し、集会等で歌う機会を設けることを伝えとよい。

評価に当たって

○楽曲の気分を感じ取り、思いをもって表現しようとしているかを、話合いの様子や発言及び歌唱時の表情やワークシートなどから評価し、表現への思いをもつことができたなら、表現を工夫できるように指導します。

留意点及び工夫点

- 春の様子を表した絵や写真を提示したり、校庭の様子を見せたり、生活科等で体験したことを想起させたりすることが、春のイメージを膨らませるのに効果的です。
- 思いを実現させるための音楽の表現技能が十分に身に付いていない低学年の段階では、教師が二つの歌い方を示して比較させたり、声の出し方を言葉でたとえたりして、音楽表現の技能を身に付けられるように指導し、自分の思いを表現ができた喜びを味わわせていくことも必要です。

キーワード

鑑賞 音階や調 速度 強弱 反復 変化 言語活動

鑑賞の観点を与えたり、聴き取ったことを友達と共有させたりすることにより、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みの働きによる曲想の変化を聴き取る力を育て、言語活動の充実を図る事例です。

指導のねらい

旋律、速度や強弱、調の変化から、感じ取ったことを言葉で表すなどして、曲想と変化の特徴に気付いて楽曲全体を味わって聴くことができるようにする。

＜学習指導要領との関連＞【第5学年及び第6学年】

B鑑賞 イ〔共通事項〕ア(ア)旋律 速度 強弱 (イ)反復 変化

授業の例

題材名「曲想の変化を感じ取ろう」(高学年)のうち、「ハンガリー舞曲」2/2時間

1時間目には主な四つの旋律を口ずさみ、それらの旋律が繰り返して演奏されることや、調の変化に着目して聴きます。2時間目には、速度や強弱と曲想の変化の関連に着目して聴きます。

学習活動と予想される反応	指導上の留意点と言葉かけ
1 既習曲(転調を含む)を歌唱する。 2 「ハンガリー舞曲」を聴き、四つの旋律の変わり目で挙手をする。 「ハンガリー舞曲」おもしろさを見つけて聴こう 3 速度の変化に着目して、全体を聴く。 ・拍を打ったり、指揮をとったりしながら聴く。 ・静かに聴き、気付いたことをワークシートに書く。 4 強弱の変化に着目して、全体を聴く。 ・強弱の変化をワークシートに書く。 5 印象的な音や音型、旋律などを聴き取り、話し合う。 ・特徴的な音を付箋にメモする。 ・グループ用ワークシート「こんな音を見つけたよ」に付箋を貼りながら話し合う。  「イの出だしのシンバルがかっこいいな。」 「ウとエでトライアングルがかわいい音で演奏しているよ。」  6 グループで出た意見を発表する。 7 「ハンガリー舞曲」を通して聴き、「おもしろさの秘密」を文章にまとめ、違うグループの児童とペアで伝え合う。 8 本時の学習を振り返る。	「調の変化を感じて歌いましょう。」 ・前時の復習として、演奏順序(ア→イ→ウ→エ→ア→イ)を提示し、曲の移り変わりを確認させる。 「この時間の終わりには、『おもしろさの秘密』を文章にまとめます。」 ・体を使って表現をしながら聴く場面と、静かに聴く場面とを明確に示す。 ・強弱の変化を線や図形、言葉、体の動きなどで表現させる。 ・速度や強弱の変化とともに、その効果について聴き取れている児童の意見を生かす。 ・1枚の付箋に一つの気付きを書くこと、楽器名や擬声語、図形など、表現しやすい方法で書くことを伝える。 ・話し合ったことを、自ら確認し共有できるように、再生する機器をグループに用意する。 「自分やグループのワークシートを参考にして、まとめましょう。」 ・他のグループの児童と交流することで、各自の気付きを広げる。

評価に当たって

○学習活動7で書いた文章が不十分であっても、学習活動3～5の様子や発言、ワークシートの内容について、よさを認めます。

留意点及び工夫点

○同じ楽曲で、「音色や音の重なりを感じ取る」ことをねらいとして、ピアノの連弾、バイオリン独奏、管弦楽などの演奏形態による違いを聴き比べることも考えられます。

〔グループのワークシートの例〕

【こんな音を見つけたよ！】(3)班

ア イ ウ エ ア

バイオリン ジャンジャン トライアングル

シンバル

〔個人のワークシートの例〕

1 調、速度、強弱などの変化に気を付けて聴こう。	
	ア イ ウ エ
調	短調 — 長調 —
速度 (数字は速さのレベル)	速い 4 途中でおそくなり、また、速くなる 5 さらに速い
強弱	強い→弱い 2回 強く強い→弱いが2回 強い→弱い 弱い→急なクレッシェンド→弱い
感じたこと、気づいたこと	悲しげなメロディだが、元気が出る シンバルが応援しているようだよ。 小さな動物が走っている感じ、かわいい。 スロー・ジョン、何かに引っ張られる感じ、びく。

3 曲のおもしろさの秘密を紹介しよう。

全体的に活気があり、元気が出るような曲です。速度と強弱の変化があって、楽しめます。加速したかと思うと、ブレーキがかかり、また加速するところが、おもしろいと思います。イでは、多くの楽器が「ジャンジャンジャン」と応援しているように演奏しています。ウとエでは、トライアングルがかわいい音で入り、はなやかさを出しています。わたしは、ウとエが気に入っています。もどってきたアはくり返さずに、イに突入して、盛り上がり終わります。

我が国の音楽の一つであるわらべ歌に親しみながら、五音音階を用いて、旋律をつくったり友達の旋律を受けて即興的に答えたりする力を身に付けさせる事例です。ふし問答を通して、旋律づくりの基礎を学ばせます。

指導のねらい

友達の特徴を表した言葉に五音音階を使い、問いと答えを意識して、簡単な旋律をつくることができるようにする。

＜学習指導要領との関連＞【第3学年及び第4学年】

A表現（3）イ （1）イ 【共通事項】ア（ア）旋律 音階 拍の流れ （イ）問いと答え

授業の例

題材名「わらべ歌に親しもう」（中学年）3／4時間

前時までは、わらべ歌を歌ったり聴いたりすることで、わらべ歌特有の旋律に慣れ親しみ、本時では、「友達のよいところ」をテーマに、五音音階の構成音を使った旋律づくりをします。



学習活動と予想される反応	指導上の留意点と言葉かけ
1 既習のわらべ歌を歌唱する。 2 「ミソラシ」を使って給食の献立名を歌い、模倣をする。（Aさん→みんな→Bさん→みんな→Cさん…） 3 つくり方の説明を聞いて、相手のよいところの旋律をつくる。 「友達のよいところを伝え合う わらべ歌をつくろう」 つくり方  「Bさん」  「はあい」 ① 相手のよいところ ② 返事（ほめられた気持ち） 4 二人組でふし問答をする。  B - さん い つも え が お で あ り が と う  は あ い え が じ ょ う ず な B - さん う れ し い な 5 いくつかの組が発表し、聴き合う。 「Aさんのふしを受けてBさんがうまく答えていたね。」 「同じようなリズムでつくったから、よいのかな。」 6 本時の学習を振り返る。	「二つのグループに分かれて『やり取り』を感じて歌いましょう。」 - 木琴などで、簡単な伴奏を加える。 「『ミソラシ』を使って、1小節の『ふしまねっこ』をしましょう。」 ①は、帰りの会で発表してきた「友達のよいところ」のカードを使う。 ①は、旋律を考える時間を与えるが、②は、学習活動3で返事の例をいくつか考えておき、学習活動4では即興的に答えるように伝える。 - 役割を決めてふし問答をさせる。終わったら役割を交替して行わせる。 役割を交替で行う。 AとBが、問答 Cが、木琴等で伴奏 Dが、聞き役、助言 「どのようなふしにすれば、問いと答えのように聞こえるでしょう。」 - 二人組で問答ができたことを称賛する。 - 次時は発表することと、他のグループの多くの友達とも問答することを伝える。

Bさんが、学級新聞にイラストをかくてくれました。

Bさんが、えがおであいさつしてくれました。

伴奏の例



評価に当たって

○五音音階の構成音を使って旋律がつくれているかを、問答の様子から評価します。問答が続いている児童や、グループ内でペアを変えるなどして、新たな旋律づくりに取り組んでいる児童についても称賛します。

留意点及び工夫点

記譜をさせる場合の例

○短い旋律づくりでは即興的に表現することが求められます。記録に残すために記譜をさせる際には、記譜の方法を工夫して段階的に取り組ませ、個に応じて十分に支援する必要があります。

○使う音を2音から始めて段階的に5音に増やし、無理なく旋律づくりができるように指導します。高学年ではお囃子の旋律づくりや、琉球音階による旋律づくり等に発展させることが考えられます。

